

氏名	澤田 宇多子	部署	看護学科	職名	准教授
研究分野	精神看護学				
学位	博士（保健学）				
学歴	2001年 東京大学医学部附属看護学校卒業 2016年 東京大学大学院健康科学・看護学専攻精神看護学分野修士課程修了 2020年 東京大学大学院健康科学・看護学専攻精神看護学分野博士課程修了				
経歴	2001年 東京大学医学部附属病院 看護師 2007年 社会福祉法人恩師財団母子愛育会 愛育病院 看護師 2010年 東京大学医学部附属病院 看護師 2016年 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 科研費研究員 2020年 東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 精神看護学分野 特任助教 2023年 東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 精神保健学分野 助教 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 公共精神健康医療研究部 科研費研究員 2024年 埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科精神看護学 准教授 東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 精神看護学分野 客員研究員 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 公共精神健康医療研究部 客員研究員				
所属学会（役職）	日本精神保健看護学会、日本看護科学学会				

【2025年度実績】

1. 研究業績							
(1) 著作(著書及びその他の著作物)							
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月	
1	該当なし						
(2) 論文							
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻（号）、開始-終了ページ	著者、編者名	発表等年月
1	Digital mental health intervention for well-being among lowdistress workers in small enterprises on a secondary analysis of an RCT	共著	あり	○	Sci Rep. 2025 Jul 16;15(1):25686. doi: 10.1038/s41598-025-11206-4.	Natsu Sasaki, <u>Utako Sawada</u> , Sayaka Ogawa, Hajime Takeno, Taichi Shimazu, Akizumi Tsutsumi, Kotaro Imamura	2025.7
2	Feasibility and Preliminary Evaluation of Implementation Strategies to Increase Individual Participation in an Internet-Based Stress Management Program for Micro- and Small-Sized Enterprises: A Pre-Post Pilot Study	共著	あり	○	Journal of Occupational and Environmental Medicine 67(9):p 766-775,September 2025.	Natsu Sasaki, Taichi Shimazu, Sayaka Ogawa, <u>Utako Sawada</u> , Byron J Powell, Junko Saito, Miyuki Odawara, Hajime Takeno, Akizumi Tsutsumi, Kotaro Imamura	2025.9
3	トラウマインフォームドケアに対する態度と主体価値との関連についての検討	共著	あり	○	Japanese journal of traumatic stress: official journal of the Japanese Society for Traumatic Stress Studies. 2025;23(2):191-201.	小西優歌, 浅岡紘季, 飯田真子, 澤田 <u>宇多子</u> , 河鳶譲, 池田美樹, 宮本有紀, 小井土雄一, 西大輔	2025.9
4	統合失調症をもつ人の精神健康における困難から立ち上がるきっかけや支えに関する質的研究	共著	あり	○	日本精神保健看護学会誌 34 (2), 40-48, 2025-11-30	北條理子、澤田宇多子、宮本有紀	2025.11

5	Development and Validation of the Japanese Version of the Revised Publication Pressure Questionnaire (PPQr-J): Assessment of Reliability and Construct Validity	共著	あり	○	Japanese Psychological Research. 2026 Mar 3.	Nozawa, K., Imamura, K., Watanabe, K., Sawada, U., Asaoka, H., Kotake, R., Morita, Y. and Miyamoto, Y	2026.3
(3) 学会発表							
	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市		発表者（発表者は○印）		発表等年月
1	トラウマインフォームドケアに対する態度と主体価値との関連についての検討	共同	第24回 日本トラウマティック・ストレス学会、東京都千代田区		○小西優歌、浅岡紘季、飯田真子、澤田宇多子、河嵩讓、池田美樹、宮本有紀、小井土雄一、西大輔		2025.8
2	児童相談所職員を対象としたトラウマインフォームドケア動画研修の効果：非無作為化比較試験	共同	第24回 日本トラウマティック・ストレス学会、東京都千代田区		○飯田真子、片岡真由美、澤田宇多子、宮本有紀、佐々木那津、亀岡智美、西大輔		2025.8
(4) その他							
	名称	単・共	発表場所等		発表者（発表者は○印）		発表等年月
1	該当なし						
2. 競争的資金等の研究							
	競争的資金等の名称	研究名		研究代表者・研究分担者の別		研究期間	
1	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金（若手研究）	改良版オンラインCREWの効果検討と職場の特性に対応するプログラム要素の特定		研究代表者		2022－2025	
2	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究A）	ケア従事者・利用者双方のウェルビーイングを高める持続可能な「質保証システム」の構築		研究分担者		2023－2027	
3. 教育業績							
(1) 講義							
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）			
1	精神看護学Ⅰ		1	自分自身のメンタルヘルスについて、具体性をもって理解できるように、事例や映像資料を用いて講義をおこなった。特に、労働者のメンタルヘルスについては、疫学とともに、最新の介入研究などについて講義し、自殺に関する講義では、疫学とともに、若年者の自殺の増加について、予防、取り組み、遺族への支援について講義した。			
2	精神看護学Ⅱ		2	精神疾患をもつ人の治療と看護、疫学等について基本的な講義を行った。また、看護における対人関係の重要性やコミュニケーション技法についての講義も行い、看護実践につながるよう工夫を行った。			
3	メンタルヘルス論	○	4	科目責任者として、メンタルヘルスの回復・保持・増進に必要な支援を総合的に理解でき、主体的に学習できるように、授業を構成した。講義（総論）を担当し、対人だけではなく、改めて自分自身のメンタルヘルスを考える重要性について講義した。			
4	看護実践科学 精神看護制度論		15	精神医療福祉の領域における制度について、その歴史と現状を説明すると共に、自身の研究についての説明を行った。また、学生の質疑をもとにディスカッションを行った。			
(2) 演習							
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）			
1	精神看護学Ⅱ		8	3年次生に対して「場面の再構成」と「ケアプランの作成」演習の指導を行った。具体的な説明を行い、学生間で活発にディスカッションを行える場づくりをし、それぞれの理解を深めて看護学実習につながるよう指導した。			

2	看護学演習（精神看護）		15	精神看護学領域の研究論文を中心に文献検討を行い、実践課題を探究するための研究方法を指導した。先行研究や教員・学生の経験に基づき、活発に意見交換を行いながら、論文作成、発表に向けての指導を行った。	
(3) 実習					
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	総合実習		2025.07	4年次生に対して精神科デイケアでの実習指導を行い、精神障害をもつ人の理解と、地域生活における必要な看護と支援を統合的に学べるように調整し、学生が主体的に実習を行えるようサポートしつつ、適宜必要な指導を行った。	
2	IPW実習		2025.07-2025.10	教員ファシリテータとして、学生チームの学習・実習環境を整備し、チーム活動が円滑に進むように支援し、IPWが実践できるようにサポートした。	
3	精神看護学実習	○	2025.10-2025.12	科目責任者として、実習を構成し、3年次生に対して臨地、学内演習、遠隔での実習指導を行った。精神障害をもつ人の理解と病棟での実践的な看護を学べるように、医療機関や地域施設の実習指導者と調整を行った。また、臨地で積極的にさまざまな経験ができるように調整をしつつ、学生自身がその場でしっかりとその経験を振り返り、深い学びと成長につながるような指導を心がけた。	
(4) 論文指導					
	対象		期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	卒業論文		2025.4-2025.12	主指導 4名	副指導 名
(5) その他					
	名称		期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	該当なし				
4. 社会貢献活動					
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師					
	講演会、研修会、公開講座等の名称		主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	こしがや・まつぶし こども大学		埼玉県立大学	お互いを知ることからはじまるコミュニケーション	2025年8月
2	埼玉県立大学一般公開講座		埼玉県立大学	家族のためのリカバリートーク	2025年10月
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等					
	国、自治体、学術団体等の名称			委員等の名称	任期
1	日本精神保健看護学会			査読委員	2025年4月～現在
2	日本看護科学学会			査読委員	2025年4月～現在
3	ウェルビーイング学会			査読委員	2025年4月～現在
(3) ジャーナリズムでの発言					
	メディア等の名称				内容 年月
1	該当なし				
(4) その他					
	項目	相手方等	内容		期間
1	該当なし				
5. 学内運営					
	項目	内容			期間
1	学科等における委員会等	看護学科2年生担任（2024年度入学生）			2025. 4-2026. 3
2	学科等における委員会等	ヒューマンケア論科目運営担当			2025. 4-2026. 3
3	学科等における委員会等	看護学科カリキュラム運営検討会			2025. 4-2026. 3
4	学科等における委員会等	ダイバーシティ推進委員会 相談員（看護・介護）			2025. 4-2026. 3
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）					
	受賞名	主催			受賞年月
1	該当なし				

7. 特許の取得		
	特許名	特許番号 登録年月
1	該当なし	
8. 特記事項		
1	該当なし	